

2023年3月20日（月曜）

全労金2023春季生活闘争ニュース・第22号 ～勝ち取ろう賃金改善！“みんなの春季生活闘争”で生活不安を払拭しよう！～

全労金「第6回災害からの復興・再生集会」を 4年ぶりに現地に集合して開催しました

◎1日目『フィールドワーク』を実施

1日目は、開会集会後、フィールドワークを実施しました。フィールドワークでは浪江町の震災遺構となった「請戸小学校」、双葉町の「原子力災害伝承館」を訪問し、東日本大震災の発生に伴う津波被害の脅威と福島第一原子力発電所の事故がもたらす「複合災害」について、福島で何が起き、被害とどう向き合ってきたか、今なお続く風評被害への払しょくや、震災を風化させず後世へ伝え続けていくためにどのような取り組みが求められるか、等を共有することができました。また、震災から12年が経過していますが、自宅にバリケードがあり、未だに自由に出入りできない双葉町の街並みを車窓から確認することもできました。



請戸小学校の様子

原子力災害伝承館の掲示物

自由に出入りできない自宅
(双葉町)

◎2日目『講演』『分散会』を実施

2日目は、日本教育公務員弘済会福島支部の柴口さんより「震災から12年～学校現場から見える原発災害～」と題して震災以降の教育現場の課題、生徒や教職員のケア、自身の避難経験を通じて原発事故による被害は継続していることや、避難指示が解除されても住民のコミュニティの分断により震災前のように元通りになることはなく、新たに街づくりを行っていく必要性等について講演をいただきました。また、政府が決定している「ALPS処理水」の海洋放出について、処理水の概要や、処理水がもたらす課題について丁寧に説明いただきました。

分散会では、福島の現地視察や講演を聞いてみての率直な感想を出し合い、自分たちに何ができるのか、今後単組でどのように取り組んでいくべきか、意見交換を実施しました。

最後に、集会で学んだことを各単組の取り組みに活かしていくこと、全労金「原発に対する考え方」等に基づき、今後のエネルギー政策を考えていくきっかけとすることを確認し合い、全労金「第6回災害からの復興・再生集会」を閉会しました。



◎原発のない福島を！県民大集会の参加報告

第6回災害からの復興再生集会の閉会后、福島市において、原発のない福島を！県民大集会が開催されました。

実行委員長より「福島県内では、全ての原発の廃炉が決定しているが、福島第一原発での重大な事故があったにも関わらず、政府が原発再稼働を進めようとしている。また、震災から12年が経過しているが、未だに福島県内は原発事故の影響を受け続けている。その中でも復興に向け、一歩ずつ歩みを進めてきたが、政府が「ALPS処理水」の海洋放出を決定した。関係者の理解なしに放出は行わないとの意向を示していたが、政府が一方的に決断を下した。多くの県民は、再び風評被害が広がることの懸念や、処理水の海洋放出による健康被害への不安を訴えている。これ以上福島県民に負担を強いるような政府の決定に対して反対の意思を示す」との挨拶がされました。

特徴的な報告として、高校生平和大使からは「ALPS処理水」の海洋放出に対して「政府の示す処理水の考え方はいかにも安心なものとしているが、本当に健康被害はないのか。トリチウムは自然に存在しているもので害はないと断言しているが、なぜ言い切れるのか。これから数十年にわたって廃炉作業が続く中、海洋放出を続けた場合の保障は誰にもできない。私たち若者がしっかり理解し、声を挙げ続けていくことが必要だ」と、訴えました。



全労金は2023春季生活闘争において、誰もが安全に安心して働き続けることができる環境を方針に掲げ闘争を展開しています。自然災害は全国で発生する可能性があり、私たちの当たり前にある生活が一瞬で奪われる可能性があります。大規模な災害を前に自分たちに何ができるのか、2日間の集会を通して、防災・減災の取り組みやエネルギー政策について議論するきっかけとなる有意義な集会となりました。全労金は、今後も全国各地で発生する自然災害等で被災した仲間や地域住民に「寄り添い」「復興を願い」「支援する」取り組みを継続します。

以上

《全労金のSNSを紹介します！》

☆ 全労金HP (<http://www.zenrokin.or.jp/>)

☆ 全労金Facebook (<https://www.facebook.com/zenrokin>)



※次号は3月22日に発行します！